

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 599 号	氏名	Mya Myat Ngwe Tun
学位審査委員		主 査	西田 教行
		副 査	金子 修
		副 査	池松 和哉
論文審査の結果の要旨			
1 研究目的の評価			
本研究は、ミャンマーにおけるデング出血熱（Dengue hemorrhagic fever: DHF）・デングショック症候群(Dengue Shock Syndrome: DSS)の発生頻度と重症化要因をウイルス学的に明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。			
2 研究手法に関する評価			
ミャンマーの中核病院である Pyinmana 病院および Mandalay 小児病院において 3 年間に DHF/DSS と診断された患者 160 名の急性期および回復期ペア血清を用いて、Dengue ウイルス特異的 IgG および IgM 抗体を測定し、また中和抗体価を評価し、重症度と抗体価の関係性を統計学的に解析したもので、研究手法も妥当である。			
3 解析・考察の評価			
上記手法で解析した結果、ミャンマーでは、臨床的に DHF/DSS と診断された症例 160 名中 139 名が実際にデングウイルスに感染しており、他のウイルス性疾患であるのも少なからず見られた。血清量が十分であった 94 例中、二次感染が 86%、抗体産生から見た一次感染者は 14%存在していた。デングウイルス感染の重症化は抗体依存性感染増強（Antibody Dependent Enhancement:ADE）が重要視されているが、少なからぬ症例が一次感染において重症化している実態を明らかにした。ADE 以外の重症化メカニズムの存在可能性を示唆しており、ウイルス因子、宿主因子、あるいは環境因子の解明が必要と思われる。今後のデングウイルス感染制御研究への進展が大いに期待される。			
以上のように本論文はデングウイルス研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。			